

南方遺跡の装身具

岡山市埋蔵文化財センター
文化財保護主事 原田悠希

1 装身具とは

- ① 飾りとして身体、衣服につける工芸品。櫛、簪、指輪、首飾り、腕輪、耳飾りなど。アクセサリー。
- ② 考古学で、身体を装飾する器具をいう。着装部位により頭飾り、耳飾り、腕飾りという。材料には石、骨、牙、貝、土、木などあらゆるものが使用された。旧石器時代に起源し、日本でも縄文時代以後多用された。呪的意義をもつものから始まったといわれる。

<精選版 日本国語大辞典>

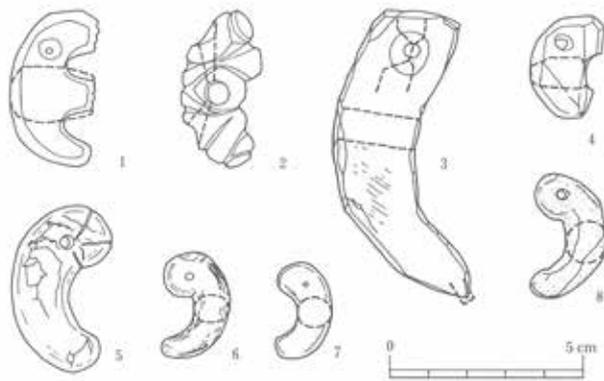
⇒呪術的機能、示威的機能、識別機能、装飾機能

2 弥生時代の装身具

- ①装身具素材の多様化と定形化
→青銅製品、ガラスなどの人工物の使用、素材によって形態が定形化する
- ②広域にわたる交流
→南海産の大型巻貝、半島産のガラス、青銅、糸魚川産の翡翠、日本海側の碧玉
- ③階級の序列を示す
→社会に階層が生じたことにより、装身具にその意味が反映される
- ④死者に装身具をつけて埋葬する習俗
→貴重品を着装させたままでの埋葬、副葬品として埋葬

表1 弥生時代の装身具

部位 \ 素材	植物質	動物質	貝殻質	岩石質	ガラス質	金属質
頭	櫛（竹ほか） 頭飾（木製）	簪（骨・鹿角）	頭飾（貝符）	頭飾（管玉）		
耳				耳飾（管玉）		
首・胸		垂飾（牙・鯨歯）	頸飾（貝符・ 竜佩型製品）	垂飾（勾玉） 頸飾（管玉）	垂飾（勾玉） 頸飾（管玉）	腕輪（青銅・ 銀・鉄）
手首	腕輪（漆塗）	腕輪（猪牙・骨）	腕輪（巻貝・ 貝珠・貝符・ 竜佩型製品）	腕輪（管玉）	腕輪（円形） 腕輪（連珠）	指輪（銀）
指		指輪（鹿角）	指輪（巻貝）			
腰		腰飾（鹿角等）				
足			足飾（貝珠）			



- 1 獣形
- 2 縮縮形
- 3 牙系
- 4 半環状
- 5 丁字頭
- 6 定形式
- 7 不定形
- 8 土製

図1 勾玉の各形態

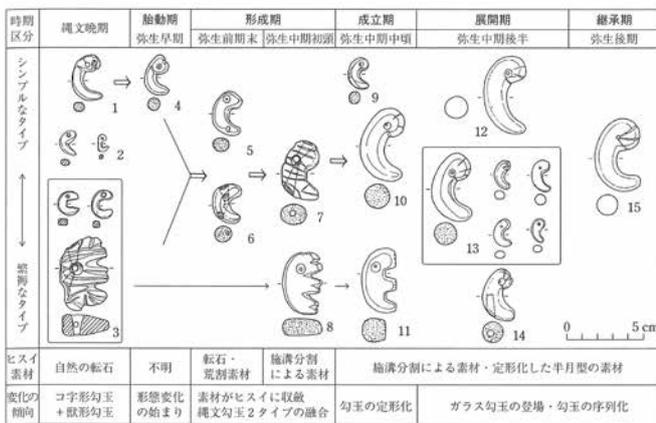


図2 丁字頭勾玉の成立と展開

図3 弥生勾玉の地域性

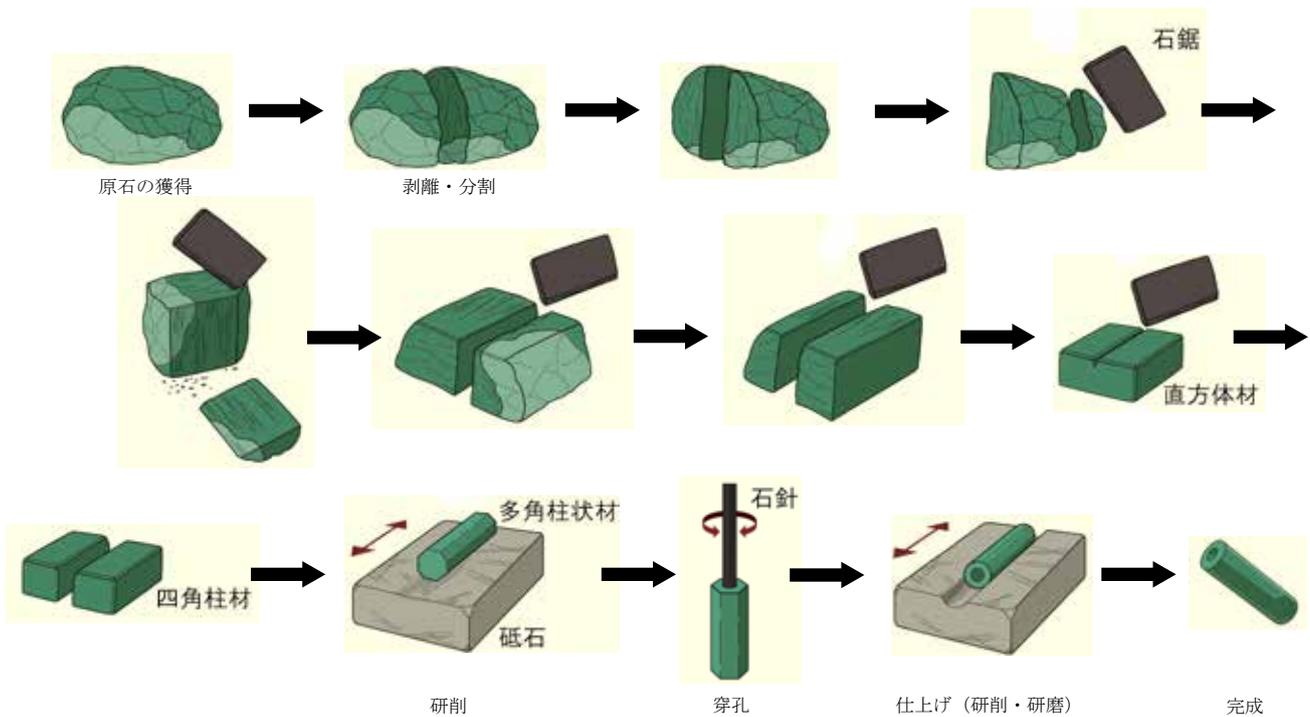


図4 管玉の作り方 (大中の湖技法)

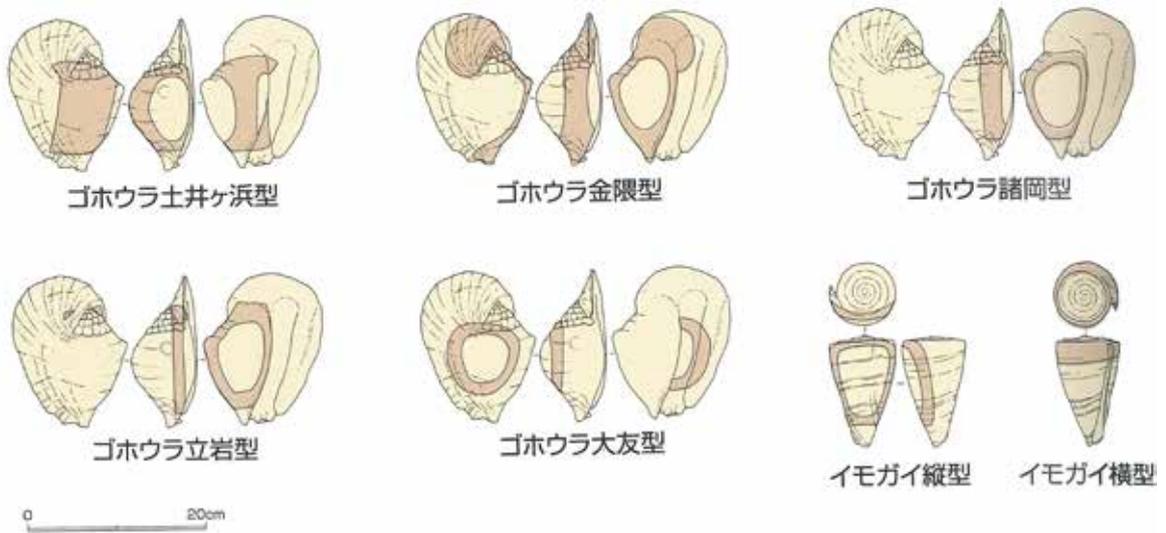


図5 利用部位による貝輪形態の違い

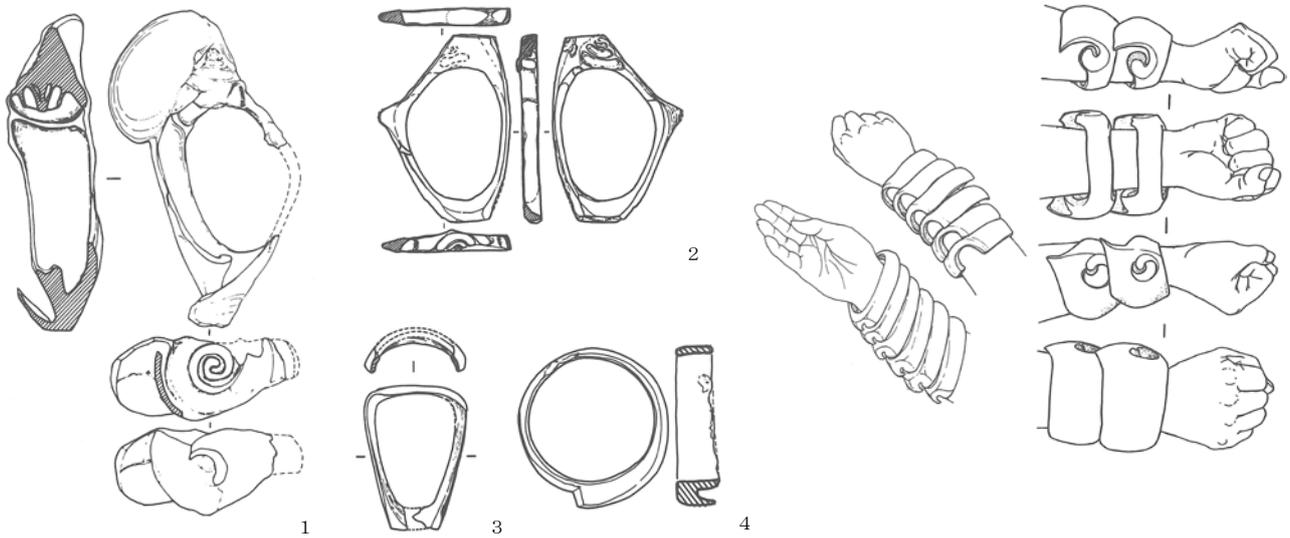


図6 各型式の貝輪

(1: 金隈型、2: 立岩型、3: イモガイ縦型、4: イモガイ横型)

図7 貝輪着装の想定図

(左: 諸岡型、右: 土井ヶ浜型)

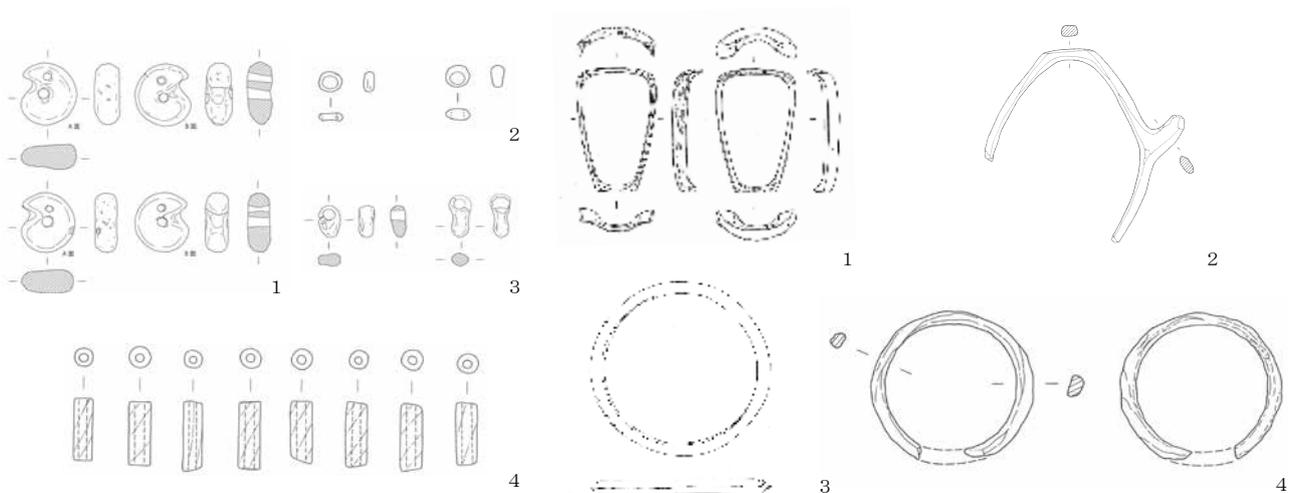


図8 玉類の材質転換（ガラス）

(1: 勾玉、2: 小玉、3: 垂玉、4: 管玉)

図9 貝輪の材質転換

(1~3: 銅釦、4: ガラス釦)

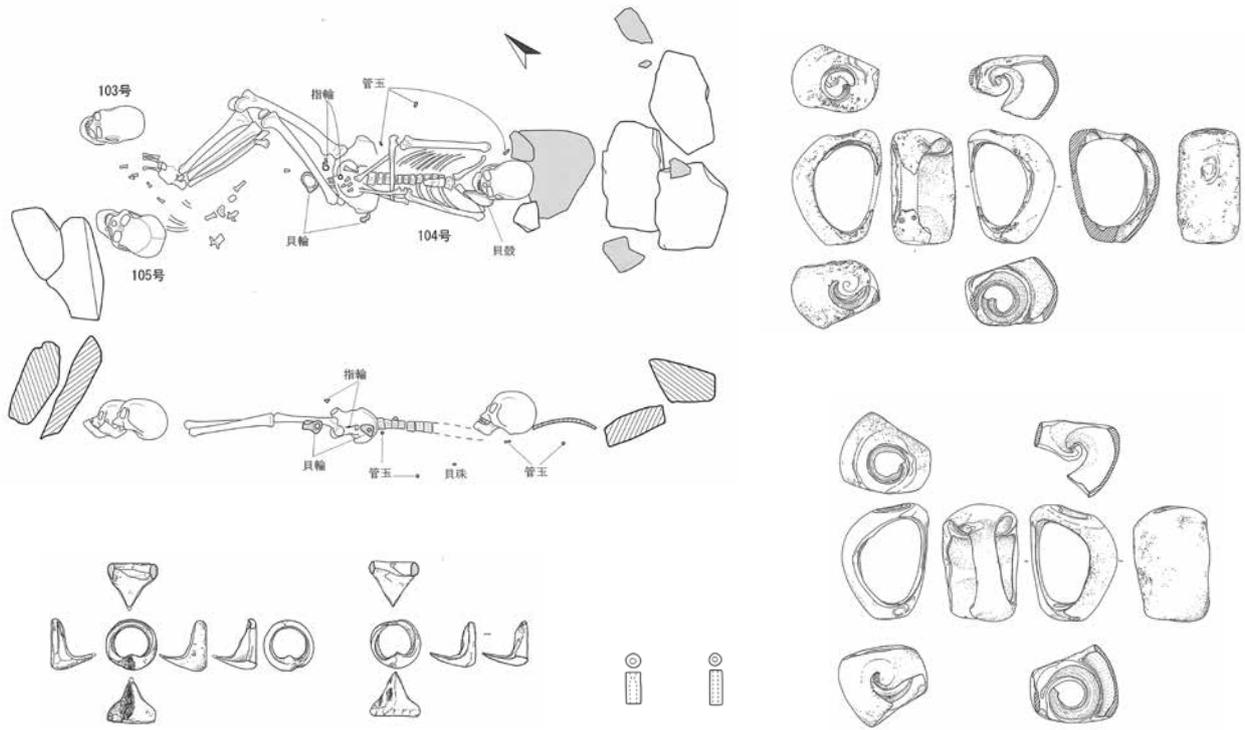


図10 装身具の副葬状況（土井ヶ浜遺跡124号人骨）

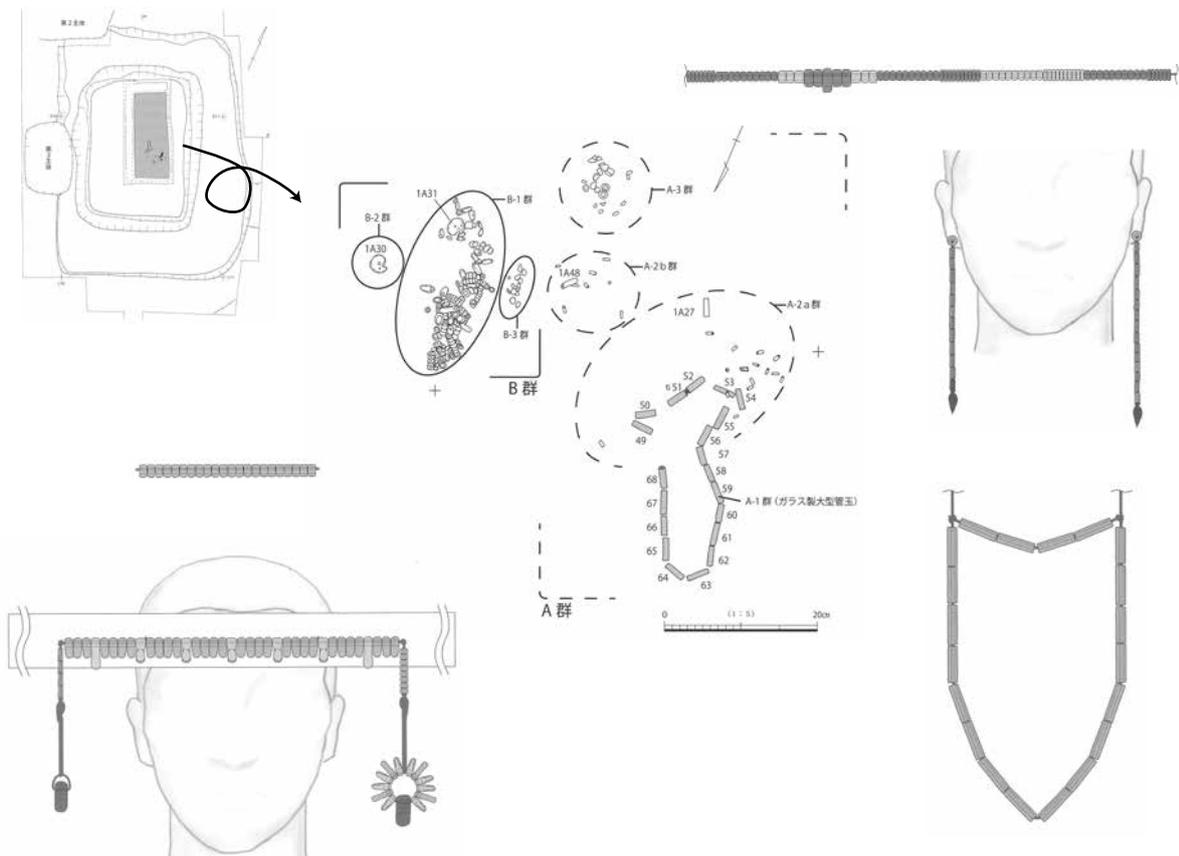


図11 装身具の副葬状況と直着装復案（西谷3号墓）

3 南方遺跡の装身具と交流

南方遺跡で出土した装身具（図12）

木製・骨製簪

牙玉、骨玉

貝製腕輪・指輪

碧玉製管玉

翡翠製勾玉

子供貝輪・二枚貝小玉

ゴホウラ製小型貝製品

素材を在地で入手可能

素材・製品を在地で入手不可能

⇒他地域との交流を経て素材・製品の獲得（図13）

↑装身具以外の遺物から見ても他地域との交流がうかがえる（図14）

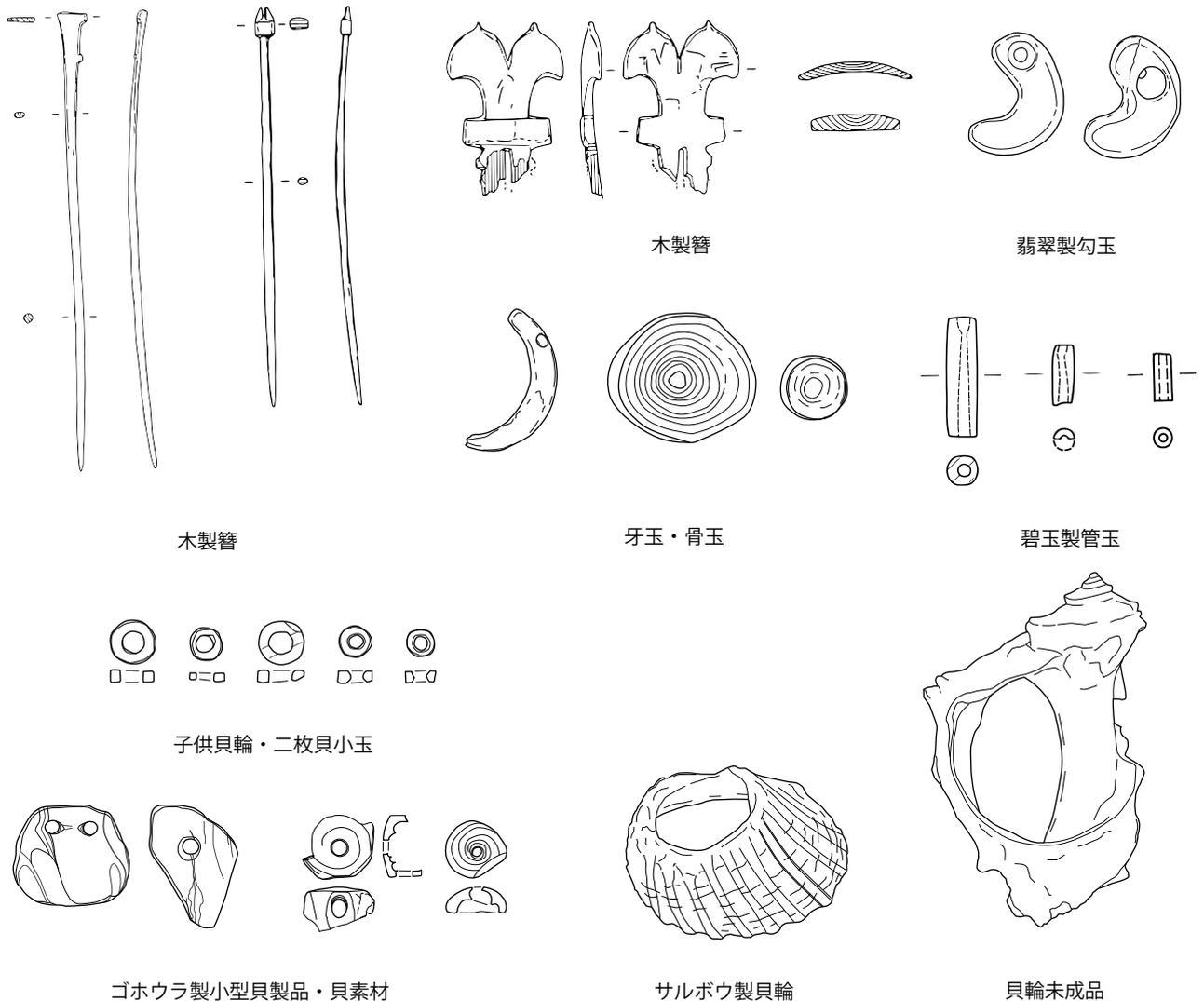


図12 南方遺跡出土の装身具（縮尺不同）

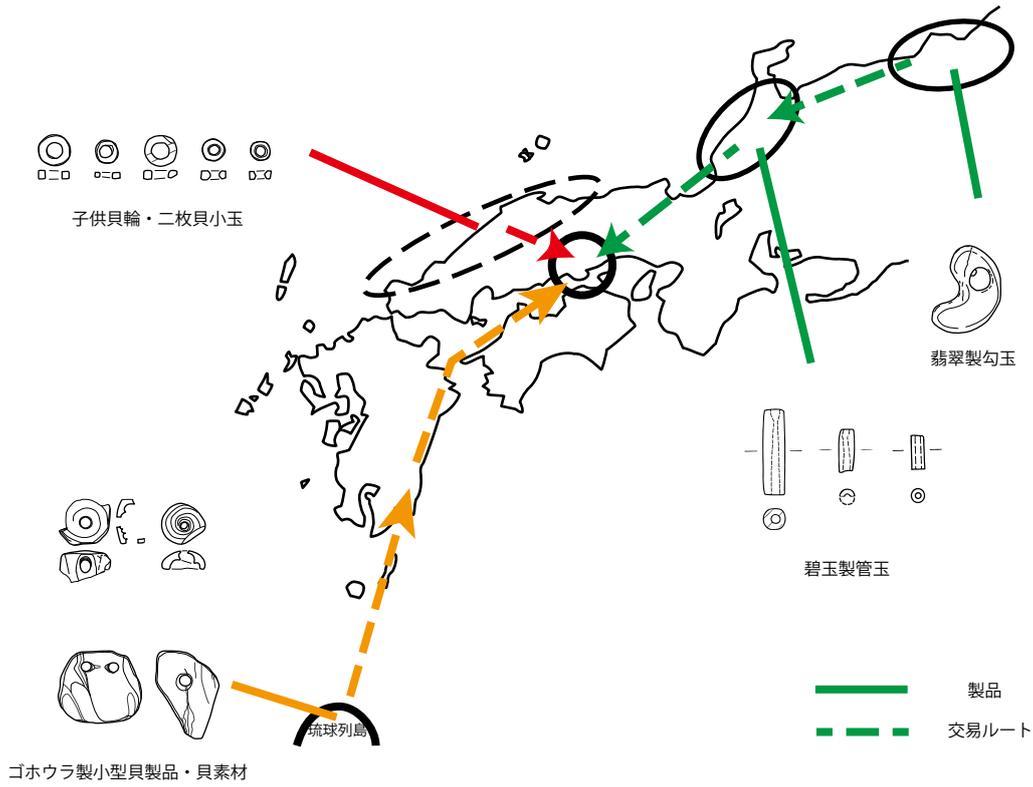


図 13 装身具からみた他地域との交流

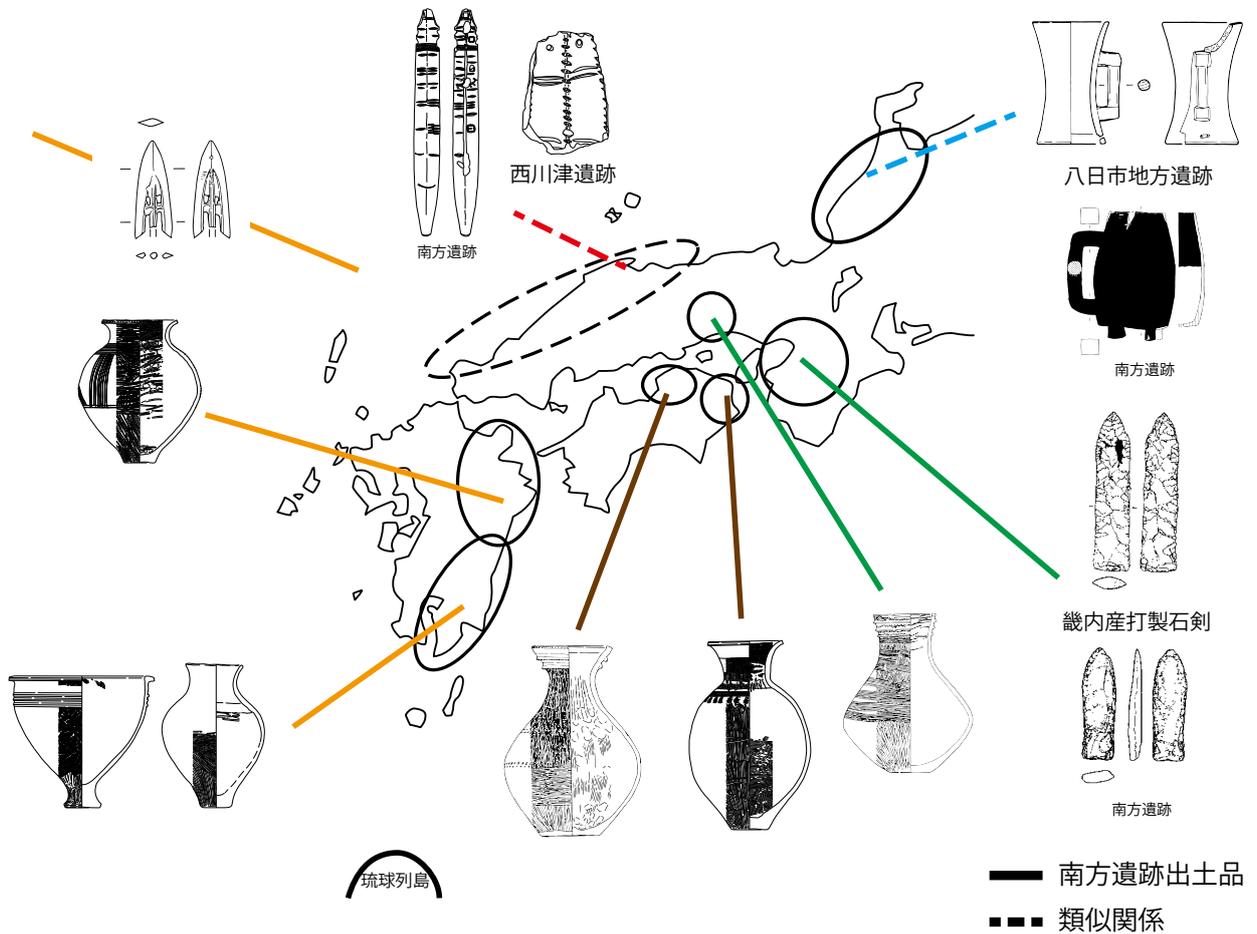


図 14 その他の出土品からみた他地域との交流